

国慶節，歓迎会，多様な10月

中国での生活が始まり2ヶ月目となるが、これまでの時間は本当にあっという間に過ぎてきたように感じられる。

10月は早くも気温は下がり、冷たい風が吹き始める。

今月からは山西大学の一般の新入生は軍事訓練を終え、通常の授業が始まる。その直前にあるのが、中国の建国を祝う国慶節だ。今年10月1日、中国は建国65周年を迎えた。国慶節は、天安門広場にて建国式典が行われ毛沢東主席により中華人民共和国の成立が宣言されたことに始まり、毎年祝われている。10月1日から1週間ほどの大型連休だ。大学の中にある大きな広場にも国慶節を祝う言葉が書かれた、華やかで目立つ看板が用意され祝賀ムードに包まれた。中国人の知人と会えば国慶節を祝う言葉を交わすことも少なくない。キャンパス周辺の商店街もこの時期に合わせて様々なイベントを展開しにぎわった。1日には、習近平主席が訪れた肉まんのチェーン店に各地から観光客が殺到したという。この時期は多くの人々が帰省や旅行で移動するため交通機関もかなり混雑する。山西省から内モンゴルへ電車での移動を計画していた知人も座席のない乗車券しか買えなかったほどだ。私はこの時期、先生や友人たちと車で出かけるなどして市内で過ごしていた。



国慶節(山西大学キャンパス内にて)

月末には、学部の新入生歓迎会も行われた。私は知人に招待され外国語学部の歓迎イベントに参加したが、数時間にわたってステージで様々な学生が出し物を披露したり外国語で発表をしたりと質の高いものだった。日本語を学んでいるという学生とも交流ができた。彼らの日本語はかなり流暢で、それぞれ将来の自己実現に向けた熱意が感じられた。



太原市内のレストランの様子

今月はハロウィーンの月でもある。太原市内では日本の都市部のように多くの人が派手な服装で歩く場面は見られなかったが、仮装した人やイルミネーションをつけた人がちらほら見られ学内でもイベントが開催された。

さて来月北京で開かれる APEC。この準備も進んでいる様子が見受けられる。中国の報道では、APEC に向けてパトロールの強化など治安維持のために様々な対策が行われているといった情報が目についた。

杉浦聡太